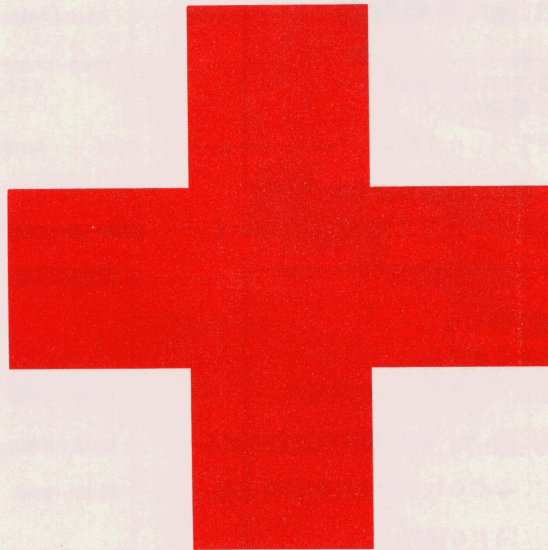


日本赤十字社臨床衛生検査技師会会誌

# 日 赤 検 査

The Journal of Japanese Red Cross Medical Technology

————— 1 9 9 9 ————— 第33卷 第1号 —————



日本赤十字社臨床衛生検査技師会

# 目 次

## 【巻 頭 言】

「21世紀は新興・再興感染症の年」

～ 微生物検査担当諸氏よ。

今こそ奮起されたし ～……………日本赤十字社臨床衛生検査技師会会長 目黒純一……………1

## 【研 究】

$\beta$ -ラクタマーゼ非産生 ABPC 耐生(BLNAR)

インフルエンザ菌(type b) による化膿性髄膜炎の一症例……………松山赤十字病院 谷松智子ほか……………3

ムピロシン耐生 MRSA について……………前橋赤十字病院 横沢郁代ほか……………8

血中抗 LPS 抗体測定により O-157 腸炎と診断した 1 症例……………松山赤十字病院 西山政孝ほか……………13

前橋赤十字病院 平成 10 年 1 年間の血液培養陽性例の検討……………前橋赤十字病院 横沢郁代ほか……………17

胃癌の肝転移と腫瘍マーカー……………大津赤十字病院 梶尾雅子ほか……………24

副腎外傍神経節細胞腫の 2 例……………足利赤十字病院 須永義市ほか……………29

卵巣未分化胚細胞腫の一例……………熊本赤十字病院 大塚幸二ほか……………32

ヒトパルボウイルス B19 感染により

一過性の汎血球減少症を呈した 1 症例……………京都第一赤十字病院 河崎瑞枝ほか……………35

総胆管拡張症に起因して著しい凝固異常をきたした

8ヶ月乳児のビタミン K 欠乏性出血症について……………京都第一赤十字病院 播磨喜代美ほか……………42

前橋赤十字病院の輸血マニュアルについて……………前橋赤十字病院 竹島孝子ほか……………47

rHuEPO の維持量の増減を要した

血液透析患者の変更前後における

鉄代謝関連検査と血清アルブミンの比較検討……………松山赤十字病院 宮田安治ほか……………56

当院における左房内径短縮率(% F Sa) 基準値設定の試み……………横浜赤十字病院 原淳一ほか……………61

検査のシステム化によって考えられる検査技師の将来像……………岡山赤十字病院 井口祥三郎ほか……………65

検体前処理業務の迅速化に関する検討

～ 真空採血管;インセパック-S とインセパック-SQ-H

およびインセパック-E との比較成績 ～……………大阪赤十字病院 山田満広ほか……………69

【北から南から】……………78

【報 告】……………87

【会 則】……………99

【附: 会員名簿】……………105

〔巻頭言〕



## 「21世紀は新興・再興感染症の年」

微生物検査担当諸氏よ。

今こそ奮起されたし！！

日本赤十字社臨床衛生検査技師会

会長 目黒純一

(武蔵野赤十字病院)

会員の皆様、業務に精励されていることと感謝申し上げます。

いよいよ21世紀突入が間近となってきました。忘れ物はないでしょうか。

コンピュータ西暦2000年問題への対応はいかがでしょう。

マイコンチップ搭載の種々検査測定機器類、特に優先医療用具（「患者の多少にかかわらず、万が一2000年問題が発生した場合、患者の生命に影響を与える可能性があると考えられる医療用具」と定められている）には技師業務にも関連する用具として体外、植え込み型ペースメーカーが該当するようですが、対応は完了しましたか。

21世紀は新興・再興感染症の問題も話題になってます。減少を続けてきた結核罹患患者が1997年、初めて前年度より増加し、厚生省から「結核非常事態宣言」が発令されたことは周知の通りでございます。

また、制定以来100年を経た伝染病予防法が廃止され、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」『感染症新法』が平成11年4月より施行されました。

今年も、O-157やその他の菌の食中毒のニュースがあとを絶たない様ですし、セラチア菌やVREの感染死亡、そして去る8月27日の新聞には、三重県の病院で1月～2月にかけて19人が死亡した原因は、「インフルエンザとMRSAの複合感染による毒素性ショック症候群（TSS）の可能性が高い」との調査結果を報じており、まさに新興・再興感染症の様相を呈し始めている感がいたします。

検査の中でも、ややもすると地味な存在視されがちな微生物業務は、今こそ、同定感受

性の迅速回答、休日夜間の対応による早期治療と感染拡大防止への貢献、分離菌や薬剤耐性の定期的情報提供、病棟内の落下菌や付着菌や手指消毒テスト、あるいは感染症患者退室後の病室消毒などの院内感染防止対策等々に関して、担当諸氏の積極的協力と企画に一層の奮闘を期待し、微生物検査室の存在を大きくアピールする好機になれば、素晴らしいことでしょう。

「微生物検査担当諸氏よ。今こそ奮起されたし!!」である。

21世紀の社会、とりわけ医療行政がいかなる環境であろうとも、私達検査技師も赤十字の一員として、「人道」「公平」「中立」「独立」「奉仕」「単一」「世界性」の赤十字基本原則を忘れてはなりません。

会誌の発行に当たり、多忙な中をご研鑽され投函下さいました会員諸氏と、編集担当されました足利赤十字病院の大西一明先生に感謝いたします。